

読み聞かせに、解説本の出版に、本を通じてSDGsを子どもたちに伝える実践者たち。彼らの視線は企業が自社の取り組みを発信する際の「ほんのり」にならなう。

2001年に「子どもの読書活動の推進に関する法律」が施行されました。以降、家庭や地域、公共図書館などで子どもと本をつなげるさまざまな取り組みが広がりました。私もこの流れに乗った一人です。子どもとともに地域の図書館を始める、絵本の世界にのりこみ始め、読み聞かせの会をつくり、16年間活動してきました。幼稚園・保育園まではお母さんたちが絵本を読んであげますが、ある時、「後は自分で読みなさい」という言が聞かえてきました。「読んであげればいいのか」と思うと同時に、親子の読み聞かせが見直し・生徒の読書にどうつながっていくのか気になり始めたのです。自分なりに絵本や読み聞かせについて勉強を始め、「FIC（児童書アドバイザー）を取得しました。その後、新潟県から依頼を受け読書推進指導をするなかで司書と絵本専門士の資格も取り、現在は糸魚川市初の学校司書として、市内の小中学校の学校図書館に勤務しています。

絵本専門士の資格を取ったことが転機になりました。ちょうどその頃、SDGsという言葉が少しずつ世の中には新潟県燕市のひとり出版社「おむすび舎」の『いのちのたぐい』もありました。「自分の体は自分が食べた物でできている」ことがしっかりとわかる絵本です。

SDGsの扱う問題はセンシティブな面もあり、不安になったり心配になったりしてしまう子どももいます。そんな時こそ絵本の出番。絵本はつらいお話でも笑顔の絵がどこかにあります。読み終えると元気をもらえることが多いのです。

夢は絵本を使い世界のことを学ぶ活動

SDGsは世界共通の合言葉です。司書としての活動場所は主に学校ですが、最近、企業との連携の必要性を強く感じます。例えば「お父さんの会社ではSDGsでどんなことをしているの」と子どもに聞かれた時に、きちんと答えられる人はどのくらいいるでしょうか。企業のSDGs講座でも絵本がいい導入になるのは間違いありません。そのためにも子どもたちや大人に向けて読書指導ができる人間を育てていかなければいけません。そして、SDGsは日本だけの問題ではありません。絵本には世界のことが描かれています。SDGsの絵本を使って「世界の」ことを学ぶ活動をしたいという夢を描いています。

（新潟県燕市 朝日 仁美）

SDGsを身近に「絵本の扉を開こう」
読書指導できる人材を育成したい

絵本でSDGs推進協会 代表理事 朝日 仁美



実践者の視線

まっすぐな目で読んだ。私の勤務する小学校の図書館にも小学生新聞を置いていますが、SDGsに関する記事を読んでみると「何でこんなに難しく書くのだろう。絵本で紹介すれば分かりやすいの」と思いました。そうして19年に立ち上げたのが「絵本でSDGs推進協会」です。

体験をつなぐワークショップ
自分ごとにしてもらう

私たちの活動は全国各地に広がっています。19年には東京都の京エロロジセンターでSDGsの各ゴールと関連した絵本の企画展を開催しました。期間中には、絵本の読み聞かせに加え、野菜の種材を使ったエコバック作りのワークショップを行いました。展示は1カ月半に及び、子どもたちや親子連れ、地域の方や大学生にも熱心に見ていただきました。私たちの活動では、より身近に自分ごとにしてもらうために、SDGsと体験を結びつけるワークショップを大事にしています。絵本の読み聞かせだけでなく、体験することで身近に感じてもらえることを、一連の流れで行う企画を考えています。

最近では、子ども食堂のスタッフ研修やお寺に呼ばれることもあります。地域の方を前にお話しさせていただく機会も増えてきました。まずはSDGsの読み方から、それから17ゴールを説明します。最初から17ゴールや理念といったところから始めてしまうと、大人でも

とっつきにくく感じてしまいます。

私が一番よく活用している絵本を「紹介します。汐文社から出ている『わたしがわかる みらいもわかる SDGs』は最初のいい本。出版社から私に『この絵本を日本一読んでくれている人』と呼ばれているようですが、そのくらいどこでも読めますし、学校教材としてもぴったりな一冊です。中学生のSDGs学習の導入では、スクリーンに映して説明するのですが、本には著作権があること、出版社の許諾を得て使用するといった情報のリテラシーの啓蒙も行うにしています。絵本ですので、中学生のフリップを揃つけないように「小さい子向けに書いてあるけど、これが分かれればSDGsのことは理解できるとなるとつながっていきます。」

本のよさはやはり自分のペースで読めることにあるのではないのでしょうか。手でページをめくっていく、この質感はデジタルでは得られません。8月上旬に平凡社から絵本でSDGs推進協会編として『絵本で学ぶSDGs』が発売されました。17ゴールごとに絵本専門士5人が91冊を通じて紹介しています。書名にSDGsと知っていても世の中の問題を分かりやすく解きほぐした絵本は案外多いのです。

本の中で私は『もっといいないばあさん』の作者である真珠まりこさんにインタビューしました。『もっといいないばあさん』に込められた大きなメッセージにあらためて気づかされました。通書の中



絵本でSDGs推進協会編『絵本で学ぶSDGs』 平凡社提供

あさひのこみ／学校司書として新潟県糸魚川の小・中学校の図書館に勤務。絵本専門士の資格を活かし、2019年より「絵本でSDGs推進協会」を立ち上げる。2022年7月に国連大学を会場に行われた第3回パリ協定とSDGsのシナジー強化に関する国際会議で「絵本でSDGs」について発表

＝絵本でSDGs推進協会提供